

『初笑い・狂言』公演

1月26日：於、東京ベイホテル東急

着付け教室を中部・関東に幅広く展開する「きものレディ着付学院」主催での新年会企画として「狂言公演」を実施した。出演は大蔵千太郎さん率いる「大蔵流若手狂言SHIN」。会場のホテルはディズニーリゾートの敷地にありキラキラとデコレーションされた瀟洒なホテルに700人以上もの着物姿の淑女が大集合でこの上ない華やかさ。

当初、「狂言」を新年会でやりたいとの依頼を受けたときには、会場の大きさと宴会の場でのステージと言う事でお客様が集中してみてくれる環境なのか懸念がありましたが、御担当の部長様が「伝統芸能をしっかり見せたい」との熱意を話され快諾しました。

プログラムは大蔵千太郎様の〈能狂言の実演を交えたお話〉をへて小名狂言『口真似』鬼山伏狂言『節分』。

学院の皆様による「着付け舞い」が終わり休憩をはさんで「初笑い・狂言公演」が始まったが場内は先のショーの余韻で暫くは蜂の巣状態で少々困惑するも、開演のチャイムと照明が落ち、舞台明かりがついてからは凜とした静けさに変身。ステージが進むにつれ和やかな雰囲気になってきた。さすが“和の文化”を大切にされる皆様と感心した次第。

一番心配されたのは会場の広さに、声を通るかの問題であった。ピンマイク等を用意した方が良いかと出演者に相談すると“生声”でも構わないと自信をもって答えられ、舞台から離れた通常のマイクで拾う事にした。最初は解説マイクの音と生声の差に違和感があったがお客様のマナーの良さにも助けられてより自然な感じで声が伝わっていった。

最後の『節分』では鬼が訪れた家の女房に恋をして言い寄るも、か弱いと思われた女房にコテンパにしてやられ「鬼は外、福は内」と追い払われて終幕となったが、異形の“鬼”に扮した大蔵千太郎さんが舞台袖に汗だくで飛び込んできた時に進行表の表記ミスを勘違いしたディレクター（私）が無情にも「まだ時間がある」と舞台に送り出し。特別トークで場内を笑わせ締めくくる結末となった。本当の“鬼”は私だったのオチにて一件落着と相成った。

ともあれ“笑う門には福来る”今年も舞台に福がありますように。